

令和2年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況点検及び評価

宮城県教育振興基本計画

～志を育み、復興から未来の創造へ～

目指す姿

学校・家庭・地域の強い絆のもとで、多様な個性が輝き、ふるさと宮城の復興を支え、より良い未来を創造する高い志を持った、心身ともに健やかな子供が育っています。そして、人々が生きがいを持って、生涯にわたり、多様に学び、交流する中で、豊かな文化と活力のある地域社会が形成されています。

目標

- 1 自他の命を大切にし、高い志と思いやりの心を持つ、心身ともに健やかな人間を育む。
- 2 夢や志の実現に向けて自ら学び、自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 3 ふるさと宮城に誇りを持ち、東日本大震災からの復興、そして我が国や郷土の発展を支える人間を育む。
- 4 学校・家庭・地域の教育力の充実と連携・協働の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる。
- 5 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。



◆ 大河原町教育振興基本計画 ◆

「笑顔」「元気」「学び」

～志を高め 学び継ぐ ひとつづくり～



大河原町の教育振興を図るためには、地域・家庭・学校・行政がそれぞれの役割を担いながら、連携・協働し、それぞれの世代や立場で必要な人材を育成していく「ひとつづくり」が不可欠になっています。

そのために大河原町教育振興基本計画では、全ての町民が、「笑顔」で「元気」に「学び」続けられる町を目指し、「生涯学習の姿」「家庭・地域の姿」「子供の姿」「学校・教職員の姿」と対象を明確にするとともに、「ひとつづくり」の実現に必要な施策と具体策・目標値を示しています。これにより教育関係者ならびに、広く町民の理解と協力を仰ぎ、共に学び・高め合うことをねらいとしています。

◆目指す姿

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1. 生涯学習の姿 | 生き生きと学ぶ町民 |
| 2. 家庭・地域の姿 | 明るい家庭 支える声が響く地域 |
| 3. 子供の姿 | 笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供 |
| 4. 学校・教職員の姿 | 信頼される学校・教職員 |

◆教育委員会の充実

2015年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正」により、大河原町では2016年度に「新しい教育委員会制度」がスタートしました。このことにより教育委員会は、さらなる教育の政治的中立と教育行政の安定性を確保し、多様化している町民のニーズに応えながら教育・文化の振興に努めるとともに、会議の公開など、開かれた教育委員会をいっそう推進します。

また、教育委員会事務局においては、教育行政における基本方針や重点施策をふまえ、家庭・地域・学校への支援や教育環境の整備・充実に取り組みます。さらに、事務の管理及び執行状況の点検・評価を的確に実施し、常に改善に努め、信頼される教育行政を実現します。

大河原町の教育の基本的方向と令和2年度重点的取組

1. 生涯学習の姿 【目標】生き生きと学ぶ町民

◆基本的方向 1 持続可能な生涯学習の拠点整備

施 策

- (1) 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
- (2) 「誰でも、いつでも」学べるセーフティネットの推進（学習拠点・居場所づくり）
- (3) 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり

主な具体策

- ①中央公民館を起点とした「にぎわい創出」の事業展開
- ②「絵本と学びのへや」を中心とした図書館事業展開
- ③「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供
- ④金ケ瀬公民館を拠点とした金ケ瀬地区の未来型コミュニティづくり

令和2年度重点的取組

施 策	(1) 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
主な具体策	①中央公民館を起点とした「にぎわい創出」の事業展開
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館では、複合化施設「にぎわい交流施設」として生まれ変わった中央公民館を拠点とし、町民の教養向上だけではなく、人材育成から地域の活性化につなげていく。 ・金ケ瀬公民館では、空調設備が整備され、快適な学習環境が整ったことによる利用者及び利用率の向上を目指す。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館では、町の有識者や専門家に依頼し、郷土史講座や大人向けの昆虫講座などを定期的の開講することで、その修了者が講師となって地域を支える担い手となるような学習環境を提供する。 ・金ケ瀬公民館では、金ケ瀬地区の地域づくり拠点施設として住民による施設運営を検討する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2020年度)	目標値 (2022年度)
1	「生涯学習の充実」に対する満足度（5段階評価）	3. 1	2. 5	3. 5
2	中央公民館年間来館者数	30, 435人	8, 353人	33, 500人
3	金ケ瀬公民館年間来館者数	11, 084人	5, 643人	12, 200人
4	貸出資料数	70, 025点	66, 269点	75, 000点
5	「絵本と学びのへや」年間来館者数	—	7, 623人	15, 000人
6	放送大学利用者数	—	21人	300人

成果 課題等	<p>《成果》 中央公民館を拠点とし、町民の教養向上だけでなく人材育成から地域の活性化に繋げていくよう努めた。 金ヶ瀬公民館では空調設備が整備され快適な学習環境が整ったことによる利用率の向上を目指した。 しかし、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、数値による向上とはならなかった。</p> <p>《課題》 今後更に、町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくりに努める。 また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、公民館利用団体と主催講座・教室、企画展事業などに、新しい生活様式に即した、創意工夫による施設の利用促進を図ってまいります。</p>	
内部評価 C	A B C D	目標を上回って達成した 目標をほぼ達成した 目標をやや下回った 目標を下回った
外部評価 C	<p>◇コロナ禍にもかかわらず、貸出資料数が6万点を超えたことは、実に素晴らしい。</p> <p>◇公民館を2ヶ月間も閉館するというこれまで経験したことも無い災難の中、細々とではあるが確実に事業を継続した関係の皆様へ感謝したい。</p> <p>◆人材育成から地域の活性化をめざす、具体策が見えるようにしたい。</p> <p>□新型コロナウイルスの影響により様々な行事が中止になり、数値による向上には繋がらなかったが、安定した「貸出資料数」は、学びたいと思う町民が多いことの表れであり、成果として評価したい。</p> <p>■中央公民館、金ヶ瀬公民館、共に学習環境が整っていることに加え、コロナ禍においても災害時に備えた防災機能が整っていることを広く町民に知らせて欲しい。</p>	

凡例

- ◇ プラス評価・意見等
- ◆ 改善点等の評価・意見
- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見

◆基本的方向 2 伝統文化・芸術活動等の推進

施 策

- (1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
- (2) 芸術文化に親しめる環境づくり

主な具体策

- ⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進
- ⑥無形文化財保持団体の活動の場の拡大
- ⑦えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進

令和2年度重点的取組

施 策	(1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
主な具体策	⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進 ⑦えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進
目的・目標	・町内の自然，風土，歴史，文化的遺産等の文化財を未来の子供たちに継承するとともに，貴重な学習資源ととらえ，学校の体験学習・調べ学習等，幅広い教育活動に活用する。
重点的取組	・文化財や伝統文化等の保存，継承と整備を行い，積極的に活用促進を図る。 ・かおり高い文化芸術を身近に鑑賞する機会を提供し，地域の文化芸術の振興を図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2020年度)	目標値 (2022年度)
1	「文化・芸術の振興」に対する満足度（5段階評価）	3.3	3.0	3.5
2	民俗資料収蔵室年間来館者数	66人	37人	20%増加
3	芸術文化事業 青少年小劇場・青少年劇場小公演の実施	実施	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	継続して実施
4	はたらく館への来場者数	—	—	250人
5	学芸員の配置	—	—	1人

成果 課題等	<p>《成果》 文化財の適切な保護及び普及啓発と、えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進に努めた。 代官所跡の史跡説明板の作成・設置や、史跡説明標柱の修繕設置など、新型コロナウイルス感染症に影響の少ない事業を確実に実施した。 但し、収蔵室一般公開・収蔵室の小学生見学学習や、文化財めぐりなど新型コロナウイルス感染症の影響が懸念され、行えない事業も多くあった。</p> <p>《課題》 今後の町としての方向性をはっきりさせ、文化財の活用を検討し、芸術文化との関わりを強めていきたい。 また、町民に対して文化財の紹介の仕方に工夫を行い、より周知ができるよう推進を図る。</p>	
内部評価 C	A B C D	目標を上回って達成した 目標をほぼ達成した 目標をやや下回った 目標を下回った
外部評価 C	<p>◇懸案事項であった、代官所跡の史跡説明板の設置ができたことは、大変喜ばしい。</p> <p>◇えずこホールとの連携による芸術文化事業は大変心強い。今後、更に発展することを期待します。</p> <p>◆民俗資料を展示し、大河原町の歴史的背景を学ぶことは、未来の町を担う子どもにとって、とても重要なことである。そこで、専任の学芸員を配置し、歴史的文化的拠点を設置したい。</p> <p>□代官所跡の史跡説明板の設置や史跡説明標柱の修繕設置は、文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進に繋がった。</p> <p>■コロナ禍により民俗資料収蔵室年間来館者数は減少しているが、町民が歴史や文化に対する関心を高められるように、引き続き一般公開や学校教育活動に活用してほしい。</p>	

◆基本的方向3 スポーツ振興による健康増進の推進

施策

- (1) スポーツ、レクリエーション活動による健康づくり
- (2) 総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組

主な具体策

- ⑨総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組
- ⑩町民レクリエーション大会の実施
- ⑪夏休み小学生スポーツ大会の実施
- ⑫大河原クロスカントリー大会の実施
- ⑬地域コミュニティ強化のための行政区スポーツレクリエーション活動奨励事業の補助金交付
- ⑭スポーツ少年団の育成と活動の支援
- ⑮学校体育施設開放と活用の推進
- ⑯体育施設の効率的な維持・管理
- ⑰体育協会の活動支援

令和2年度重点的取組

施策	(1) スポーツ、レクリエーション活動による健康づくり
主な具体策	⑮体育施設の効率的な維持・管理
目的・目標	スポーツ施設の安全で快適な環境づくりを進め、町民のスポーツ活動の推進を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進む総合体育館の建物・設備の効率的かつ計画的な修繕を進めていく。 ・総合体育館変電設備の更新を行う。 ・総合体育館と東部屋内運動場のLED照明化を行い、快適な環境づくりとコスト削減を進める。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2020年度)	目標値 (2022年度)
1	「スポーツの振興」に対する満足度(5段階評価)	3.3	3.0	3.5
2	体育施設(総合体育館及び東部運動場)の年間利用者合計	116,058人	59,551人	122,000人
3	学校開放の年間利用団体合計	64団体	57団体	70団体

<p>成果 課題等</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合体育館において老朽化したキュービクル（変電設備）更新工事を行った。 ・総合体育館及び東部屋内運動場のLED照明化を行った。これにより照度の改善及び消費電力の削減を達成し、利用者の利便性の向上と経費の削減が実現できた。 ・総合体育館入口の歩道樹木の根がインターロッキングをゆがませていたため、伐根し、インターロッキングの整地を行った。これにより利用者が歩きやすくなり利便性が向上した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策による体育施設の利用中止、大会等のイベント自粛により年間利用者合計は大幅な減少となっているため、以前の利用者水準まで戻すことと感染症対策を両立することが課題となる。 ・令和3年度からは新型コロナウイルスの集団ワクチン接種が総合体育館にて土日開始される等スポーツ以外での体育施設利用があるため、利用団体への説明及び調整を行い公平公正な貸館を心掛ける。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止を行いながら、スポーツの利用団体に施設利用や大会運営をしていただくための理解をいただくよう、周知を図る。 								
<p>内部評価</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="338 1189 496 1227">A</td> <td data-bbox="496 1189 1378 1227">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 1227 496 1265">B</td> <td data-bbox="496 1227 1378 1265">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 1265 496 1303">C</td> <td data-bbox="496 1265 1378 1303">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 1303 496 1335">D</td> <td data-bbox="496 1303 1378 1335">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<p>外部評価</p>	<p>B</p> <p>◇長年、町民から要望があった、総合体育館及び東部屋内運動場の照明問題が、LED化によって、一気に解決したことは大変喜ばしい。</p> <p>◇コロナ禍にあっても、学校開放の利用団体が以前の約9割であったことは、感染防止対策が機能したことの表れであり、関係する皆様の努力に感謝します。</p> <p>◆老朽化する総合体育館の修繕を計画的に進めていることは喜ばしい限りです。今後予想される大規模改修に向けて計画的な基金の積み立てを希望します。</p> <p>□前年度より準備作業を行っていた、総合体育館の老朽化したキュービクル(変電設備)更新工事やLED照明化は、スポーツ施設の安全で快適な環境づくりに繋がった。</p> <p>■スポーツ以外での体育施設利用に向けて、より一層の感染防止対策を講じ減少した施設利用者の改善に繋げてほしい。</p>								

2. 家庭・地域の姿 【目標】 明るい家庭 支える声が響く地域

◆基本的方向 4 学校・家庭・地域との協働による教育の推進

施 策

- (1) 地域学校協働活動，コミュニティ・スクール体制の構築
 (2) 各種団体等と連携した地域で子供を育てる体制づくり

主な具体策

- ⑱ コミュニティ・スクール構築に向けた，学校教育支援の推進
 ⑲ ボランティアバンクの再整備とよりよい運用
 ⑳ 放課後子供教室事業による子供の居場所づくりの推進
 ㉑ 子ども会育成会連絡協議会の活動支援

令和2年度重点的取組

施 策	(1) 地域学校協働活動，コミュニティ・スクール体制の構築
主な具体策	⑱ コミュニティ・スクール構築に向けた，学校教育支援の推進
目的・目標	・地域と学校が連携・協働し，幅広い地域住民の参画により，地域全体で子供たちの成長を支えるネットワーク基盤となる，地域学校協働本部を設置する。また，コミュニティ・スクール構築を見据え，運営体制を整備していく。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部設置に向けて理解促進を図るため，目的の共有化，広報，普及活動に努める。 ・学校支援ボランティア登録者の活動場面の設定と新規登録の拡充促進を図る。 ・地域連携担当教職員との連携強化を図り，関係部局・機関等とのネットワーク化を促進する。 ・地域学校協働本部設置後の継続的かつ自立的な事業運営に努める。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2020 年度)	目標値 (2022 年度)
1	地域学校協働本部の設立	—	2020 年度 新規設立	2021 年度 までに設立
2	新ボランティアバンク設立	—	2018年度 より運用	2018年度 より運用
3	ボランティアバンク登録者数 (個人・団体)	206名	個人：53名 団体：3団体	300名
4	コミュニティ・スクール体制の 確立	—	—	5校
5	放課後子ども総合プランの推進	2校 (南小・金小)	2校 (南小・金小)	3校 (全小学校)

成果 課題等	<p>《成果》 新型コロナウイルスの影響等により、学校支援ボランティアの活動については一部のみの実施となった。感染状況等の注視並びに学校現場との連携を密にし、引き続き普及・啓発活動を行っていく。 大河原町地域学校協働本部の新規立上げにより、協働教育に対する地域住民及び団体等の参画基盤を確保することが出来た。今後も組織的な目標の共有を図り、地域における包括的な事業展開を目指していく。 放課後子供教室事業については、学校における休業措置等の影響があったものの、感染症対策を徹底し、子供たちの安心安全な体験活動の機会を提供することができた。</p> <p>《課題》 学校支援ボランティアについて、登録人数は微増傾向にあるものの、各学校との連絡体制及び運用方法等の整備に課題が見られる。地域学校協働本部と学校運営協議会の連携を密にし、学校・家庭・地域の活動をリンクさせる必要がある。 放課後子供教室における満足度（参加児童・保護者）については、例年高い水準を得ている。運営スタッフ及び講師等の後任育成を行い、担い手不足の解消を目指していかなければならない。</p>								
内部評価 B	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="344 1023 496 1055">A</td> <td data-bbox="502 1023 1358 1055">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 1064 496 1095">B</td> <td data-bbox="502 1064 1358 1095">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 1104 496 1135">C</td> <td data-bbox="502 1104 1358 1135">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 1144 496 1176">D</td> <td data-bbox="502 1144 1358 1176">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
外部評価 B	<p>◇学校と地域が連携を深めるベース基地として、「地域学校協働本部」が設立されたことは、大きな意義があります。</p> <p>◇コロナ禍においても、決してやめることができない放課後子ども教室の運営は、関係各位の汗がにじみ出る感染対策が功を奏し、安全な中で体験活動を行うことができたことは、大変喜ばしい。</p> <p>◆地域学校協働本部が、着実に地域の中に浸透することに期待します。</p> <p>□地域学校協働本部を設置することにより、学校運営協議会との連携が円滑になった。今後、それぞれの目標やビジョンを共有した効果が期待される。</p> <p>■放課後子ども教室は、子ども、保護者、地域の人々すべてにとって魅力のある活動である。ボランティアバンク登録者からの応援を受けるなど担い手不足を解消し、地域学校協働活動の柱の1つとして、今後も継続的に運営を行って欲しい。</p>								

◆基本的方向 5 家庭・地域の学びや活動の支援

施 策

- (1) 家庭教育，子育て世代等の学び支援
- (2) 各種関係機関と連携した支援体制の整備

主な具体策

- ②学校や保育園，幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
- ③駅前図書館を利用した家庭教育支援事業
- ④家庭教育支援ネットワーク本部(仮)の創設
- ⑤子育てサポーター，家庭教育支援チームの活動の場の拡大，活動支援

令和2年度重点的取組

施 策	(1) 家庭教育，子育て世代等の学び支援
主な具体策	①学校や保育園，幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
目的・目標	・町内における子育て支援の拡充を図ることを目的に，幼児施設や小・中学校の希望をもとに，保護者を対象とした家庭教育の場を提供する。開催に際しては，子供と保護者，保護者同士の交流を実践学習・講話を通し家庭教育力の向上をねらいとする。
重点的取組	・町内の小・中学校，公営認定保育園，児童施設，私立幼稚園への講座開催の連絡，周知を図る。また，希望する内容については，さまざまな分野の取組を紹介し，選択の幅を広げ，推進する。 ・小規模(無許可)保育所での家庭教育講座開催及び父親の家庭教育講座への参加を推進する。 ・子育てサポーターについては，活動の場を開拓する等の支援を図る。講座時における託児スペースの設置を町民に周知し，幅広い年代が参加しやすい環境を作る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2020年度)	目標値 (2022年度)
1	家庭教育講座実施数	12講座	8講座	15講座
2	大河原子育てサポーター「笑」会員数	10名	15名	15名
3	家庭教育支援ネットワーク本部(仮)の創設	—	未設立	2021年度までに創設
4	「絵本と学びのへや」での家庭教育事業	—	未実施	実施

成果 課題等	<p>《成果》 町内保育園・児童厚生施設・小学校において『子育て親育ち講座』を開催し、外出自粛等の影響による運動不足、保護者間交流の減少を解消する機会として、実技を中心とする講座が参加者に喜ばれた。 『子育てサポーター養成講座』を開催。家庭教育の立場から子育て支援を行う子育てサポーターの養成を通し、家庭教育や子育てに悩む親世代を地域全体で支援する環境と意識の醸成につなげることができた。 令和2年度は、家庭教育講座の実施が新型コロナウイルス感染症の影響により8か所での開催となったもの。</p> <p>《課題》 『子育て親育ち講座』『子育てサポーター養成講座』の内容について、趣旨・ねらいをより明確化し、会場となる施設並びに保護者の要望に応え、事業の形骸化を防止していかなければならない。 関係課並びに施設との連携強化を行い、家庭教育支援におけるネットワーク化を推進する。 子育てサポーターサークルにおける若い世代の取り込みを行い、活動機会の新規開拓等について今後も検討していく。 子育てサポーター・サークル「笑」の活動に対し支援強化を図り、会員が増加するよう推進を行う。</p>	
内部評価 B	A B C D	目標を上回って達成した 目標をほぼ達成した 目標をやや下回った 目標を下回った
外部評価 A	<p>◇核となる人を中心として、実技指導を継続しているため、参加者が増え現状値より5名増加し、15名となったことは、大きな成果だと思います。</p> <p>◇「絵本と学びのへや」での家庭教育事業をするという発想が素晴らしい。やり方を工夫すれば魅力ある事業になるものと期待します。</p> <p>□コロナ禍での家庭教育講座の実施は、企画運営に苦勞されたことと思うが、実技を中心とする内容で参加者にも喜ばれ、その取り組みは評価に値する。</p> <p>□今後講座に参加したい保護者のみならず、時間などの制限で参加出来ない保護者のためにオンライン講座などの開催も検討し、事業の形骸化の防止や子育てサポーターサークルの会員数の増加に繋げて頂きたい。</p>	

◆基本的方向 6 地域の発展につながる多様な学びの提供

施 策

- (1) 現代的かつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
 (2) 各種団体やボランティアの育成と活用の推進

主な具体策

- ②6 公民館事業・教室参加者の満足度向上を目指す事業推進
 ②7 ジュニア・リーダーの育成と活動支援
 ②8 青年会活動への助言と活動支援
 ②9 地域資源（人的・物的資源）を生かした昆虫展の充実
 ③0 高齢者のための生きがいづくり事業の推進
 ③1 町民文化祭の充実と文化協会の活動支援
 ③2 市民団体（NPO等）との協働・活動支援

令和2年度重点的取組

施 策	(1) 現代的かつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
主な具体策	②8 地域資源（人的・物的資源）を生かした昆虫展の充実 ③1 市民団体（NPO等）との協働・活動支援
目的・目標	地域の活動拠点としての中央公民館において、さまざまなニーズや実態を把握し、社会教育施設として機能の有効利用を図り、地域資源を最大限生かした昆虫展を開催する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> 複合化された新しい公民館を十分に活用し、幅広い視点から昆虫展を開催し、展示会内容の充実を図り魅力発信に努める。 昆虫展事業を推進するにあたり、ノウハウと知識を持った民間団体の協力を得て、協働活動を推進する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2020年度)	目標値 (2022年度)
1	講座からの新規社会教育団体の発足	—	未発足	2 団体
2	新規NPOの発足	—	未発足	1 団体
3	ジュニア・リーダーの会員数	18名	19名	25名
4	社会教育事業アンケート評価 満足度	—	概ね 高水準	増加

<p>成果 課題等</p>	<p>《成果》 地域活動支援事業について、新型コロナウイルス対策等によりジュニア・リーダー活動が思うように行えない中、デイキャンプ等の新たな手法を取り入れ、地域の小中学生が参加しやすい形式により開催。参加者からも概ね高い満足度を得ることができた。青年会活動については、感染症対策のため令和2年度の活動を見合わせるかたちとなった。 昆虫展について、例年の「世界・日本の大昆虫展」が感染症対策により中止となったため、代替案として町内小中学校内に標本を展示する移動ミニ昆虫企画展を実施。</p> <p>《課題》 各事業が個別に展開されている側面があるため、内容を発展的にリンクさせる必要がある。事業の適切な評価及び検証を行うため、アンケート項目等の精査も重要となる。 事業における担い手の後任育成を随時行い、地域資源を循環させ、人的・物的な振興発展に寄与する事業展開の立案が課題となる。 また、新型コロナウイルス感染症の影響により通常通りの事業実施が困難な場合、開催内容や手法を工夫し、新しい生活様式に沿った事業展開を図ることが今後必要課題となる。</p>	
<p>内部評価</p>	<p>A</p>	<p>目標を上回って達成した</p>
	<p>B</p>	<p>目標をほぼ達成した</p>
<p>B</p>	<p>C</p>	<p>目標をやや下回った</p>
	<p>D</p>	<p>目標を下回った</p>
<p>外部評価</p>	<p>◇座して待つのではなく、新しいスタイルのデイキャンプ等を工夫して取り入れる高い志が立派です。そのため、会員数が1名増加し、満足度を高めることに発展したのだと思います。</p> <p>A</p> <p>◇「幸い転じて福となす」の諺のように、昆虫展を中止した代替策として、各小中学校で行った標本の展示は、公民館まで行けない子供たちに、大きなインパクトを与えることになり、新しい形の昆虫展を考えるきっかけとなりました。</p> <p>□例年の昆虫展に替わり、町内小中学校内に標本を展示する「移動ミニ昆虫展」を実施したことで、会場が学校だからこそ見ることが出来た子ども達がいる事に気づかされた。</p> <p>□コロナ禍でも常に開催内容や手法を工夫し新しい生活様式に沿った事業展開を図っていることは評価に値する。引続き民間力も活用し子ども達を喜ばせて頂きたい。</p>	

3. 子供の姿 【目標】笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供

◆基本的方向 7 【笑顔】豊かな心の育成

施 策

- (1) 夢を育む「志教育」の推進
- (2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育, 防災教育)
- (3) 「共に学ぶ」特別支援教育の推進(インクルーシブ教育)
- (4) 歴史や文化に関する教育の推進
- (5) 読書活動の推進

主な具体策

- ③1/2 成人式や立志式, 先輩に学ぶ会の実施, おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
- ③4 道徳の教科化の趣旨に基づく, 「考え, 議論する道徳」の実施と道徳的実践力の育成
- ③5 防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
- ③6 早期発見早期支援事業による適切な就学指導の充実 ・合理的配慮・基礎的環境整備
- ③7 町教員補助員によるきめ細やかな支援の充実
- ③8 おおがわらの先人集, おおがわらの暗唱読本, 社会科副読本事業の継続と改訂
- ③9 学校司書補助員, 駅前図書館, 暗唱読本を活用した「読書のすすめ」

令和2年度重点的取組

施 策	(1) 夢を育む「志教育」の推進
主な具体策	③21/2 成人式や立志式, 先輩に学ぶ会の実施, おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
目的・目標	夢や志をもち, 将来に向かって切磋琢磨するたくましい児童生徒を育成する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や学校行事等でおおがわらの先人集を活用し, 夢や志を高め, それを実現しようとする児童生徒を育てる。(キャリア・パスポート, 志シートによる記録の充実) ・中学生「まちづくり夢・未来会議」を開催し, 次代を担う中学生に町への誇りをもたせるとともに, 町づくりに参画する意識を育てる。

施 策	(2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育, 防災教育)
主な具体策	<ul style="list-style-type: none"> ③3 道徳の教科化の趣旨に基づく, 「考え, 議論する道徳」の実施と道徳的実践力の育成 ③4 防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科「道徳」の授業を通じて, 他者とともによりよく生きる子供を育成する。 ・防災・避難訓練等を通じて, 自他の命を守る知識を身に付け, 行動できる子供を育成する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科「道徳」の実施に向けた教員の指導力向上を図り, 保護者や地域とともに「考え, 議論する道徳」を実践する。 ・各学校の実状に合わせた防災安全マニュアルの見直しを行い, 学校・地域に応じた防災避難訓練やボランティア組織の活用を促す。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2020年度)	目標値 (2022年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」将来の夢や目標を持っていますか。(「当てはまる」の割合)	小 78.3% 中 44.3%	県学習意識調査(小5・中1対象)より 小 81.9% 中 61.3%	小 80% 中 50%
2	全国調査「児童生徒質問紙」自分にはよいところがあると思いますか。(「当てはまる」の割合)	小 52.7% 中 21.9%	県学習意識調査(小5・中1対象)より 小 40.1% 中 37.4%	小 60% 中 30%
3	就学相談体制の確立と実施	—	※就学時検診の改善	2018年度開始
4	おおがわらの先人集, おおがわらの暗唱読本, 社会科副読本の改訂	先人集('15) 暗唱読本('16) 社会科副読本('13)	' 20 暗唱読本 改定・増刷済 ' 21 先人集 改定・増刷予定	暗唱読本('20) 先人集('21) 社会科副読本('23)
5	町内小中学校図書貸し出し数の増加	79,013冊	76,752冊 (2020年度) 77,612冊 (2019年度)	20%増加

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査(小6と中3対象)は実施されなかったことから、県学習意識調査(小5と中1対象)の結果によると、「将来の夢や目標を持っているか」という質問項目に対し、肯定的な回答した児童生徒の割合は小・中学生とも目標を上回った。コロナ禍においても感染対策を徹底しながら、1/2成人式や立志式など学校行事等をとおして、夢や志を高める指導を継続的に実践している。 ・おおがわらの暗唱読本「寿限無」を改訂し、令和3年度の小学1年生に配布した。各学校で暗唱読本を活用した取組を継続している。 ・各小学校で実施していた就学時健診は、本年度も町総合体育館を会場に、教育委員会が主体となって実施し、教職員の業務の負担軽減を図った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中学生「まちづくり夢・未来会議」の実施を見送った。また、学校によっては全学級道徳授業の日を統一して設定することができなかった。次年度は、地域の感染状況を踏まえながら、可能な限り事業を推進していきたい。 ・図書の貸し出し冊数については、4月、5月は臨時休業だった影響もあり、令和元年度よりも貸し出し数が減少した。中学校は貸し出し数が前年度比45%増となったが、一人あたりの貸し出し数は小学校よりも少ないことから、今後も図書に興味を持たせる工夫を継続したい。 ・就学健診については、教育委員会が主体となって実施できたが、発達検査については、各小学校で実施しており、今後、在り方について検討する必要があります。 								
内部評価 B	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
外部評価 A	<p>◇「全学級道徳授業の日」の実施は、学校全体で道徳の授業を大切にするという強いメッセージを与え、そのことが自己肯定感の高まりに発展しているものと思います。</p> <p>◇「将来の夢や目標を持っていますか」の質問で、現状値よりも高い結果が出たことも道徳の授業の成果が表れたと思います。</p> <p>◇新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休業があったにもかかわらず、小中学校の図書貸出し数が確保されていることは、学力を維持するためにとっても有効です。中学校が前年比45%増は驚異的で大いに評価したい。</p> <p>□県学習意識調査(小5と中1対象)の項目「将来の夢や目標を持っていますか」の回答結果が目標値を上回っている。1/2成人式や立志式など子どもの心を支える保護者も喜びを感じることが出来る行事があるからこそその結果とを感じる。今後も夢や志を高める指導を実践し、全国学力学習状況調査(小6と中3対象)の結果に繋げてほしい。</p> <p>□暗唱読本「寿限無」の改訂は、新1年生のみならず、これまでこの本を活用してきた他学年の子ども達にも良い刺激になったと感じる。「寿限無」を活用することによって生まれる「読むことに親しむ」習慣を一人当たりの貸出数の少ない中学生の図書に興味を持つきっかけになるよう継続的に活用して頂きたい。</p>								

◆基本的方向 8 【元気】健やかな身体の育成

施 策

- (1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着
- (2) 学校給食を中心とした食育の推進
- (3) 体力向上への取組の推進

主な具体策

- ④〇「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
- ④①新給食センターの活用や栄養教諭による学校訪問指導による食育の充実
- ④②町陸上大会、部活動等を通じた体力・運動能力の向上

令和2年度重点的取組

施 策	(1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着
主な具体策	③⑨「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
目的・目標	・生活習慣の改善とともに、何事にも最後まであきらめることなく取り組むことができる「たくましい」子供の育成に努める。
重点的取組	・「明日青のつどい」や学校生活等を通じて、自他を認め合い、自己肯定感・自己有用感を高めるための取組を行う。

施 策	(3) 体力向上への取組の推進
主な具体策	④①町陸上大会、部活動等を通じた体力・運動能力の向上
目的・目標	・体育の授業や業間での遊び、部活動を通じて、生涯を通じて体を動かすことが好きな児童生徒を育成する。
重点的取組	・「たくましい」児童生徒を育成するため、町内小中学校で各教科や行事等で独自の取組「やり抜くタイム」を位置づける。 ・仙台大学との連携により、効果的な体力・運動能力の向上について研究し、運動好きな児童生徒を育成する。

重点的取組	・「たくましい」児童生徒を育成するため、町内小中学校で教科や行事等で独自の取組「やり抜くタイム」を位置づける。 ・仙台大学との連携により、効果的な体力・運動能力の向上について研究し、運動好きな児童生徒を育成する。
-------	---

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2020 年度)	目標値 (2022 年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」朝食を毎日食べていますか	小 85.0% 中 83.1%	全国調査は実施せず 県学習意識調査(小5・中1対象)より 小 84.8% 中 83.5%	小 90% 中 85%
2	県「学習意識調査」ゲーム・携帯時間(2時間以上)の縮減	小 21.9%	小 29.9%	小 20%

		中 36.6%	中 45.3%	中 30%
3	給食残食量の縮減	約120kg/ 1日	コロナ禍により 実施しない	20%減
4	全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合 全国との乖離をプラスにする	小男 -9.3 女 -5.2 中男 +10.4 女 +7.7	実施せず	小 男女とも ±0 中 +0以上 継続

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 大河原小学校では、令和元年度に引き続き仙台大学との連携により体力・運動能力の向上を図った。コロナ禍により、大学側による直接指導は年間18回のみとなったが、運動の仕方を担任の先生が学び、通常の体育の授業にも取り入れたことなどにより、継続して体力・運動能力の向上につなげることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査(小6と中3対象)は実施しなかったことから、県学習意識調査結果(小5と中1対象)によると、「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合は小・中学校ともに目標を超えることができなかった。引き続き食育の授業等を通じて、朝食の大切さを指導したり、保護者にも協力を促したりしていく必要がある。 県学習意識調査結果から、ゲーム・携帯を2時間以上使用している児童生徒の割合は、令和元年度と比べて大幅に増加する結果となった。長時間の使用は、基本的な生活習慣の乱れや学習面にも大きな影響を及ぼすことから、家での過ごし方について指導を徹底していきたい。 								
	内部評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
外部評価	<p>◇コロナ禍でも、朝食は確実に確保されていることは大変喜ばしいことで、各家庭の教育力が確保されている証であると言えます。</p> <p>◇仙台大学との連携事業は、コロナ禍のため、ややもすると後回しになりがちなのに、年18回も実施できたことは評価に値します。</p> <p>□県や全国調査の結果は、コロナ禍により子ども達の生活リズムが崩れざるを得ない状態だったからと察する。</p> <p>■引き続き仙台大学との連携による体力・運動能力の向上を図る取組や「明日青のつどい」の開催など子ども達の心と体のバランスが整うような取り組みをお願いしたい。</p>								

◆基本的方向 9 【学力】確かな学力の育成

施 策

- (1) 基礎的・基本的な学習の充実
- (2) 活用する力を育成する取組の推進
- (3) 言語力の育成・言語活動の充実
- (4) 国際理解教育、情報通信教育の推進

主な具体策

- ④3 学力向上策「3本の矢」の継続による基礎学力の定着
- ④4 全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回るための方策
- ④5 おおがわら算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続と他教科への発展
- ④6 暗唱読本等を活用した言語活動の充実
- ④7 外国語教育充実に向けたA L T配置の継続と活用の充実
- ④8 I C T教育への先進的取組（タブレットP Cの活用促進）

令和2年度重点的取組

施 策	(1) 基礎的・基本的な学習の充実
主な具体策	④2 学力向上策「3本の矢」の継続による基礎学力の定着
目的・目標	・少人数による学習を丁寧に行うことで基礎学力を定着させ、児童生徒の学力保障と学力向上をねらう。
重点的取組	・少人数学級の実現や教科による少人数学習等のきめ細かな指導をおこなうため、町内小中学校に任期付き教員(町採用教員)を増員配置する。

施 策	(4) 国際理解教育、情報通信教育の推進
主な具体策	④6 外国語教育充実に向けたA L T配置の継続と活用の充実 ④7 I C T教育への先進的取組（タブレットP Cの活用促進）
目的・目標	・英語・外国語教育、国際理解教育の充実および情報通信教育の推進により、子供たちが次代をたくましく生きるための素地を育てる。
重点的取組	・小学校における英語・外国語活動の充実に向け、A L Tの配置体制の見直しを図る。 ・外国の学校との交流等を行うことで、多様な価値観や広い視野をもった人材育成する。 ・タブレットP Cの活用やプログラミング教育を推進することで、児童生徒の情報活用能力や論理的な思考力を向上させ、「主体的で深い学び」による学力向上の一助とする。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2020 年度)	目標値 (2022 年度)
1	全国調査の平均正答率の乖離をプラスにする(国語、算数・数学の乖離平均)	(2019 年度) 小 +2.3 中 -1.8	全国調査は実施せず 町学力調査 12月(小6・中3)より 小 +2.0 中 +4.1	小 +0以上 継続 中 ±0

2	算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続・発展	実施	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 未実施	理科・英語等での 取組実施
3	ALT 招致人数	2人	3人 (民間委託)	3人
4	ICT 機器の整備状況	児童生徒 6.2 人 に 1 台	児童生徒 1 人 に 1 台	児童生徒 3 人 に 1 台

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査は実施されなかったことから、全国正答率との乖離については令和元年度までの状況と単純には比較できなかった。参考までに町の標準学力調査(12月)の結果によると、小・中学校の平均正答率は目標値を上回ることができた。 ・民間委託(ジョイトーク)によりALTを2名から3名に増員して各学校の英語の授業を中心に活用を進め、外国語教育の充実を図っている。 ・国のGIGAスクール構想事業等を活用し、児童生徒1人1台の端末整備が完了した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町算数チャレンジ&数学オリンピック大会2020は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。県の算チャレは各学校で実施され、多くの児童が参加したことから、令和3年度はコロナの感染状況を踏まえながら、可能な限り実施の方向で事業を進めていきたい。 ・国のGIGAスクール構想を踏まえ、児童生徒1人1台のiPadを令和2年度内に配置した。今後は授業におけるiPadの効果的な活用および家庭への持ち帰りの推進に向け、町としてのルールづくりを進めていくことが必要である。 								
	内部評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
外部評価	<p>◇任期付き教員1名増、ALT1名増は、厳しい生活環境を克服し、英語の教科で苦慮する学校現場の窮状に救いの手を差し伸べる慈愛の対策と言えます。</p> <p>◆一人一台の端末整備は、今の時代に合った最適な施策です。今後は、各家庭でもWi-Fiが使えるような支援も考えて頂きたい。</p> <p>□メディアで取り上げられていた「大河原町全国トップレベルの成績の秘密」で児童1人1台のiPadが有効に活用されていることを実感した。授業で重視している「子ども達同士の対話」の手段にiPadが上手く使われており、タブレットPCの活用促進の目標を大いに達成した。</p> <p>□ALTが増員されたことにより、外国語教育の充実が図られ、コロナ禍だからこそ取り組めるきっかけになった外国の学校とのオンライン交流は、成果が期待される。</p>								

4. 学校・教職員の姿

【目標】信頼される学校・教職員

◆基本的方向 10 学校組織力の向上

施 策

- (1) チーム学校による創意・活力に満ちた学校づくりの推進
- (2) 保・幼・小・中連携教育，異校種間連携の推進
- (3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進

主な具体策

- ④9カリキュラム・マネジメントによる開かれた教育課程の推進
- ⑤0新学習指導要領実施に向けた，学校体制の確立
- 51 幼・保・小連携による接続カリキュラム，スタートカリキュラムの作成
- 52 学校評議員制度の充実とコミュニティ・スクール体制の構築 ⇒生涯学習との連携

令和2年度重点的取組

施 策	(2) 保・幼・小・中連携教育，異校種間連携の推進
主な具体策	⑤0幼・保・小連携による接続カリキュラム，スタートカリキュラムの実践
目的・目標	・幼稚園・保育所・小学校間での連携を密にするとともに，小学校におけるスタートカリキュラムを実施することで小1プロブレムを緩和する。
重点的取組	・小学校新1年生がスムーズに学校生活や学習活動に入れるよう，小学校におけるスタートカリキュラムを年間計画に位置付け実施する。

施 策	(3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進
主な具体策	51 学校評議員制度の充実とコミュニティ・スクール体制の構築
目的・目標	・学校・保護者・地域の連携による「地域とともにある学校」づくりを推進するため，町内小中学校においてコミュニティ・スクール体制を整える。
重点的取組	・既存の組織や仕組みをもとに，地域学校協働本部を設立し，コミュニティ・スクール体制の基礎づくりを行う。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2020年度)	目標値 (2022年度)
1	学校評価アンケートによる「各学校の「よく当てはまる」の回答」の全平均率	34.1%	31.7%	45%
2	町内英語・外国語担当者会，研修会の実施	—	研修会は未実施 担当者会はR2.7月，R3.2月実施	2018年度
3	接続カリキュラム，スタートプログラムの作成・実施	—	実施	実施
4	コミュニティ・スクール体制の確立	—	— '21年度南小	5校

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に南小学校からコミュニティ・スクールが導入されることから、生涯学習課における地域学校協働本部の設立及び大河原町学校運営協議会規則の策定等を行った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校の学校評価アンケートにおいて「よく当てはまる」と回答した割合の全平均は、昨年度の32.6%を下回り、目標値との差が広がった。学校ごとに「授業がよく分かる」「家庭学習をよくやっている」「不登校・いじめの予防に努めている」など、肯定的な回答の割合が少ない項目については今後改善を図りつつ、学校の取組について積極的な情報発信を進めていく。 町外国語活動・外国語担当者会を実施し、各校の取組の成果や課題等を共有した。この会には民間業者も出席して各校の課題や要望に対して改善方法を模索している。ただ、研修会そのものはコロナ禍の状況を踏まえ、実施できなかったことから、実施可能な取組を考え、教員の指導力向上を図っていきたい。 								
内部評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="336 848 496 880">A</td> <td data-bbox="501 848 1378 880">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 887 496 918">B</td> <td data-bbox="501 887 1378 918">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="236 925 261 956">B</td> <td data-bbox="501 925 1378 956">C 目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 963 496 994">D</td> <td data-bbox="501 963 1378 994">D 目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	B	C 目標をやや下回った	D	D 目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
B	C 目標をやや下回った								
D	D 目標を下回った								
外部評価	<p>◇スタートカリキュラムを始めた意義は大きいです。小学校1年生が喜んで学校に通い、小学校生活に一日も早く慣れさせようと全校を上げて取り組むことで、不登校を減らす効果も期待できます。</p> <p>B ◆コロナ禍のため実施はできなかったものの、外国語担当者会の実施は、外国語必修化が始まった今だから必要な研修だと思います。民間の業者も予定されていたことは、素晴らしい企画です。次年度の実施を大いに期待します。</p> <p>□地域学校協働本部の設置やコミュニティ・スクール体制が始まることで子どもは勿論、保護者や地域の人達にとって、それぞれの魅力が発揮できる制度だと感じる。</p> <p>■その魅力を保護者や地域の人達に分かりやすく知らせることで、学校評価のアンケート結果も目標値に近づくのではないかと感じます。</p>								

◆基本的方向 1 1 教職員の資質・指導力の向上

施 策

- (1) 町内教職員研修の充実
- (2) 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
- (3) 教職員の多忙軽減の推進

主な具体策

- 53 町内教職員研修の継続実施，県総合教育センター等研修への積極的参加の推進
- 54 ICT機器等の整備，部活動支援による業務改善
(統合型校務支援システム，緊急時連絡用留守番電話の設置等)

令和2年度重点的取組

施 策	(3) 教職員の多忙軽減の推進
主な具体策	53 ICT機器等の整備，部活動支援による業務改善
目的・目標	・教職員の働き方改革の一助として，ICTの導入及び活用の推進，部活動支援員の配置により，業務の改善・軽減を図る。
重点的取組	・ICT活用研修会を通じて，教員のスキルの向上を目指し，授業におけるタブレットPCの有効な活用促進を図る。 ・出退勤システムにより勤務状況の把握，留守番電話配備による勤務時間外対応の削減を継続するとともに，統合型校務支援システムの導入による校務の省力化や部活動支援員の配備により，教職員の業務の改善を更に推進する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2020年度)	目標値 (2022年度)
1	学校における教育の情報化の実態等に関する調査「教員のICT活用指導力の状況」(わりにできる)	14.9%	21.9% <u>(2019年度末)</u>	30%
2	時間外勤務の縮減 (各校種1日あたりの平均時間)	(17年度予想値) 小1時間54分 中3時間20分 (18年度実測値) 小2時間42分 中3時間31分 (19年度実測値) 小2時間11分 中2時間54分	小 1時間36分 (15.8%縮減) 中 2時間32分 (24.0%縮減) (2020年度実測値)	20%縮減
3	ICT校務管理システムの普及率	20%	100%	100%

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働き方改革に向け、町内5校全てに統合型校務支援システムを導入し、事務処理の軽減を図った。 ・大河原町としての「教職員の働き方改革に関する取組方針」を策定し、「令和元年度よりも毎日30分早く帰ろう」をモットーに取り組んだ結果、1日あたりの勤務時間は小学校で30分以上、中学校で20分以上の縮減につながった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度における月80時間を超える教職員は、のべ115名となり、前年度比約45%の縮減となった。しかし、平成31年3月に県の「教職員の働き方改革に関する取組方針」の中で、月80時間を超える教職員の割合を令和3年度までにゼロにする指標が示されたことから、引き続き業務改善を図っていく。 	
内部評価 B	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価 A	<p>◇ICT活用研修会により、教員のスキル向上が図られ前年比7%アップが図られた成果は大きいです。</p> <p>◇時間外勤務時間を減少させるため、町を上げて取り組んだ成果が大きく表れ、2017年比、小学校15.8%、中学校24.0%縮減は素晴らしいことです。</p> <p>◇部活動支援員の配置により、生徒と指導者の好ましい関係が生まれ、中総体の優勝に導かれた成果は、広く町民にも知らせたいです。</p> <p>□部活動指導員の配備は、教職員の業務改善に繋がったことは勿論だが、支援員1人の存在はとて大きく子ども達にも元気を与えた。</p> <p>■教職員の時間外勤務は、様々な取り組みにより少しずつ減少しているが、達成値を見るとまだまだ多忙を極めていると感じる。引き続き、業務改善を図って頂きたい。</p>	

◆基本的方向 1 2 安心して学べる教育環境づくりの推進

施 策

- (1) いじめ・不登校対策，教育相談等の充実
- (2) 学び支援のためのセーフティネットの構築（就学援助，育英・奨学金等）
- (3) 学校危機管理体制の充実(防災教育)
- (4) 家庭・地域への情報発信の推進
- (5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用

主な具体策

- 55 スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー活用の充実
- 56 おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続
- 57 各種援助・支援等の適正受給
- 58 安全担当主幹，防災主任による学校危機管理マニュアルの整備，防災訓練，体制の確立
- 59 学校だより，ホームページ，緊急メール配信，広報おおがわら等による積極的な情報発信
- 60 学校施設の老朽化対策と少子化に伴う施設の適切な運用についての検討

令和2年度重点的取組

施 策	(1) いじめ・不登校対策，教育相談等の充実
主な具体策	54 スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー活用の充実 55 おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続
目的・目標	・スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，ケアハウス事業を継続し，不登校等に悩む児童生徒，保護者の不安を軽減するとともに，復帰に向けた学力の保障を行う。
重点的取組	・学校とスクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，ケアハウス間での連携をさらに密にし，不登校の予防と早期対応を目指す。 ・心のケアハウス事業を継続するとともに，多様な学びの場を提供し，児童生徒の学力の保障を軸とした，学校復帰を目指す。

施 策	(5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用
主な具体策	59 学校施設の老朽化対策と少子化に伴う施設の適切な運用についての検討
目的・目標	・老朽化した学校施設について，優先順位をつけ改修や長寿命化対策等を行う。
重点的取組	・町内小中学校のトイレの洋式化および大河原中学校体育館の改修等について計画を策定し，建設を行う。 ・国のGIGAスクール構想に基づき，町内小中学校の高速大容量ネットワークの構築と児童生徒一人一人にタブレットPCの配置を行う。 ・適正規模の学校の在り方を検討する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2020 年度)	目標値 (2022 年度)
1	おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続	県補助事業による実施	県補助事業により継続 (2020 年度)	町独自財源による継続実施
2	町内小中学校の不登校者出現率の縮減	小 0.15% 中 4.14%	小 2.36% 中 4.23% (2020 年度)	小 0%に近づける 中 3%以下に
3	各学校区における地域連携防災訓練の実施満足度	34.9% ‘19 年度実績 31.7%	訓練実施せず	40%
4	学校評価アンケートによる「学校からの情報提供等」(各学校のよくあてはまる等の項目)	41.5%	34.4%	50%
5	建設40年を経過する学校施設の大規模改修・長寿命化の実施	40%	・校舎、体育館 トイレ洋式化 100% ・R2 年度大中体育館着手	60% 大中体育館等

<p>成果 課題等</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から始まった子どもの心のケアハウスの運営は、令和2年度も県補助事業により継続し、不登校児童生徒及びその保護者を中心に「心サポート機能」「適応サポート機能」「学びサポート機能」を充実させ、大きな成果を上げてきている。また、土曜学習会の実施など、学習支援においても重要な役割を果たしている。 町内小中5校すべての校舎及び体育館内トイレについて、衛生面や臭気問題・安全性等の問題解消を図るため、災害時にも使用可能な洋式トイレへの改修工事を実施し、児童生徒の学校生活環境の改善を図った。 老朽化した大河原中学校体育館建て替えに向け、基本設計及び実施設計業務を実施した。また、年度内の工事着手に取り組み、令和3年度の早期工事完成に向け対応した。 国のGIGAスクール構想事業に取り組み、町内小中5校すべて、高速通信可能な校内ネットワーク改修工事を実施した。併せて、児童生徒1人1台学習用タブレットの整備を行い教育環境の整備に努めた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内の不登校児童生徒は、全国平均を上回る高い水準で出現している。別室やサポートルームなど、子どもたちが安心して学べる居場所を確保するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心のケアハウスとの連携強化、定期的な教育相談部会等をとおして、学校との連携を密にし、不登校の未然防止を図っていく。 老朽化した各学校施設の今後については、令和元年度に策定した「学校施設等長寿命化計画」に基づき、計画的な改修事業を実施していく必要があるが、大規模改修事業が続いていくため、財政負担増による財源確保が問題である。今後、少子化に伴う児童生徒数の減少が予想されるため、第2期長寿命化計画では、学校の統廃合についても視野に入れた検討が必要である。 								
<p>内部評価</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="338 1115 496 1155">A</td> <td data-bbox="496 1115 1377 1155">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 1155 496 1196">B</td> <td data-bbox="496 1155 1377 1196">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 1196 496 1236">C</td> <td data-bbox="496 1196 1377 1236">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 1236 496 1261">D</td> <td data-bbox="496 1236 1377 1261">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<p>外部評価</p>	<p>A</p> <p>◇心のケアハウスにおいて「心サポート、学びサポート」などを実施、更に、土曜学習会も継続して行っている意義は大きいです。</p> <p>◇町内5校すべてのトイレを洋式化し、快適な環境づくりに率先して取り組み、完成させた成果は、目立たないが実に大きいです。</p> <p>◇ICTが日々、刻々進歩する中で、高速通信可能な環境をいち早く整え、大河原の子どもに、最先端の機器を使わせたいという担当者の意気込みが伝わり、とても嬉しいです。</p> <p>◆小学校の不登校出現率が気になります。総力を上げて何とか改善することを期待します。</p> <p>□心のケアハウスは「心」「適応」「学び」のサポート機能が充実され、児童生徒及び保護者にとって安心できる居場所になっている。</p> <p>■土曜学習会などオンラインを上手く活用し、多様な学びの提供により、不登校児童生徒の学校復帰に繋がられるようお願いしたい。</p>								